

## 女子栄養大学栄養学部保健栄養学科 栄養科学専攻臨床検査学コース

石井 恭子\*

### はじめに

女子栄養大学における臨床検査技師教育は、昭和50年に4年制の教育課程として開始されました。栄養学部で臨床検査技師国家試験受験資格取得を目指す大学は日本国内でも珍しく、今回この誌面をお借りして設立の経緯、教育内容等をご紹介します。

### I. 大学、学科の沿革と概要

香川栄養学園は、昭和8年、当時東京帝国大学医学部第1(島菌)内科にて研鑽を積んでいた香川昇三・綾夫妻の「医師の仕事は病人を出さないこと。それには正しい食生活によって人々の健康を守る。」を建学の理念として創立されました。平成25年に学園創立80周年を迎え、この間に香川調理製菓専門学校、女子栄養短期大学部、女子栄養大学大学院(栄養学専攻・保健学専攻)が設置され、多くの卒業生を社会に送り出してきました。

栄養学は「食と健康との関係を明らかにする科学」です。元来、本学で行われていた栄養士養成に臨床検査技師養成が組込まれたのは、食は臨床検査値に大きな影響を与える因子の一つであることに起因しています。創立者の娘である香川芳子学長は、東京大学医学部栄養学教室 吉川春寿教授の元で生化学を学びましたが、その中で、栄養学に臨床検査学を加えて学ぶことにより、栄養介

入から介入前後の状況の判断(生理検査から検体検査まで)の全てを行うことができる、ヒトの医学研究に貢献できる人材養成が可能になるという発案に至り、本学における臨床検査技師養成が始まりました。

### II. 保健栄養学科栄養科学専攻の 教育理念と特徴

保健栄養学科は、平成15年の栄養学部再編成による学科再編を経て、現在栄養科学専攻と保健養護専攻の2専攻から成り立っています。栄養科学専攻(定員100名)では平成24年度から栄養士教育を基盤とした幅広い能力を有する専門家の養成を学科専攻の理念とし、「臨床検査学」・「家庭科教職」・「健康スポーツ栄養」・「食品安全管理」の4コースを設けています。全員が栄養士資格を取得し、それに関わる科目を学びながら1年後期から各コースに分かれ、専門の学びを本格的にスタートさせます。コース選択にあたっては、1年前期にコース別の初期体験学習(プレセミナー)を設けて、サポート体制を整えています。「臨床検査学コース」の履修者については定員は設けておりませんが、例年ほぼ40~50名です。

### III. 臨床検査学コースにおける教育内容

「臨床検査学コース」には、臨床検査技師資格必修科目担当教員により検査技師課程委員会が組

\*女子栄養大学栄養学部保健栄養学科 isobe@eiyo.ac.jp

織されており、教授9名、准教授3名、専任講師3名の計15名の教員陣容です。医療職・資格については、医師3名、臨床検査技師3名(本学卒業生、うち1名は+栄養士)、管理栄養士2名(本学卒業生、うち1名は+衛生検査技師)、薬剤師3名(うち2名は+臨床検査技師あるいは衛生検査技師)です。教員14名が学位(博士)取得者です。この他、学内実習については、近隣大学、臨地実習先等から非常勤講師として招聘しご協力いただ

いています。

「臨床検査学コース」のカリキュラムについては、1年次前期のプレセミナーで微生物学(自己常在微生物の培養、観察)、免疫学(ABO式血液型検査)、病理学(細胞と組織の標本作成と観察)、血液学(血球の観察、血算)、生理学(心電図検査)、生化学(比色実験、尿検査)を実習します(写真1~3)。基礎臨床検査を通して人体の構造と機能の概要を説明でき、基礎検査機器の取扱いと保守



写真1 免疫学の基礎実習風景



写真2 細胞鏡検の基礎実習風景

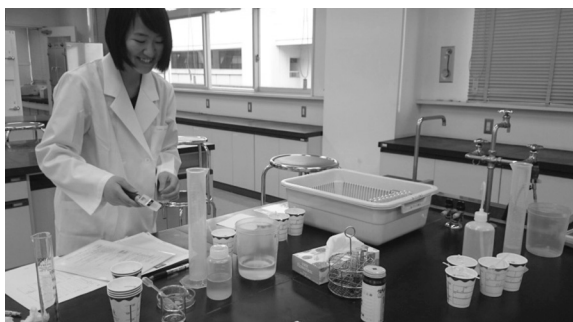


写真3 生化学(尿検査)の基礎実習風景

管理ができることを実習の到達目的としています。同時に、初年次に自分の目指す資格について興味をもち、自ら体験することにより適性を考える機会としています。2年次は食品学、調理学、給食実務論等の栄養士科目も学びつつ、臨床検査専門科目(病理学、分子生物学、生理機能学等)も学びます。3年次から本格的に臨床検査専門科目を学びますが、9月中の1週間、保育所や学校、事業所、高齢者福祉施設、病院等の特定給食施設において栄養士校外実習(給食業務)を経験します。卒業研究を履修した学生は3年次後期から研究室に所属し、各教員の指導の下、4年次の卒業研究発表会に向けて研究が始まります。

「臨床検査学コース」では、医学、医療、栄養学を学び、栄養士資格を持った、栄養に詳しい臨床検査技師養成を視野に入れており、「栄養士必修科目」「臨検必修科目」の単位修得を済ませていることが3年次以降における臨検必修科目(実習・実験および臨地実習)履修の条件となっています。学内での講義と実習の時間配分はほぼ1対1であり、臨床検査学に必要な知識と技術、実体験を通して学び、成果につなげます。3年次2月から4年次の6月にかけて学内集中実習を行い、7~10月の3ヵ月間、関東近郊あるいは帰省先の基幹病院で「臨床検査技師臨地実習」を行います。また本学では、臨地実習に先立ち、実習先の先生方に本学にお越しいただき開催する懇親会(わかば会)を設けています。わかば会は、本学に臨床検査技師コースが設立された当初の諸先輩方から続いております。臨地実習に行く前に実習先の先生方と食事をしながら話をすることで、不安な気持ちを少しでも和らげ、3ヵ月頑張れるように、ということで始まった会です。当日は、卒業生も駆けつけ、臨地実習に伺う4年生とお世話になった臨地実習先の先生方との橋渡しをしてくれます。4年生は緊張しつつも実習先の様子な

どをお伺いすることができ、大変有意義な時間となっています。学生は臨地実習での経験を通して、学内実習では得られなかった多くのことを現場にて吸収し、将来のビジョンを明確にして戻ってきます。ちなみに、わかば会の開催は毎年本学駒込校舎内にあるレストラン松柏軒を利用しております。学内に付帯施設としてレストラン、菓子工房を併設していることも本学の特徴といえるかもしれません。

臨地実習から戻ると臨床検査学特論として専門科目教員による講義と週1回ペースで模擬試験を行う国家試験対策授業が始まります。さらに教員5名と学生実習等を支えてくれている実験実習助手4名(全員本学卒業生の臨床検査技師)にて国家試験対策小委員会を組織し、担当学生の模擬試験や日々の学習状況等の確認を個別に行い、学生とともに国家試験合格を目指します。

#### おわりに

本学での4年間の学びは、栄養士資格と臨床検査技師国家試験受験資格を得るため大変忙しいカリキュラムとなっています。例年、卒業生の9割以上が臨床検査技師として病院・クリニック、検査センターに就職しています。しかしながら近年では、栄養士資格を生かし、臨床検査技師として勤務しながら「栄養サポートチーム(NST)」に所属あるいは糖尿病療養指導士として患者様と接する機会を得ている卒業生もいます。栄養士として就職し実務経験の後、管理栄養士国家試験にチャレンジし、合格する卒業生もみられるようになりました。

まもなく最初の卒業生を送り出してから40年を迎えようとしています。本学の特色を生かした、栄養士資格を持つ臨床検査技師を社会に送り出すために、教員も学生同様努力していきたいと思えます。